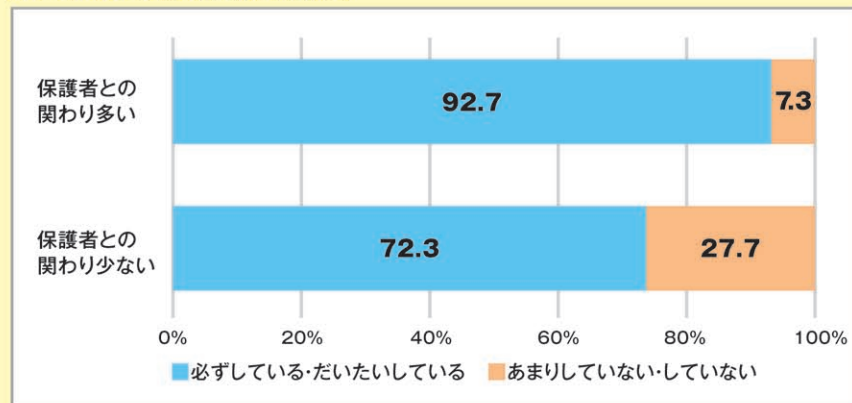


ポイントは子どもとのコミュニケーション! 家庭でのよりよい習慣づくりについて考えてみましょう

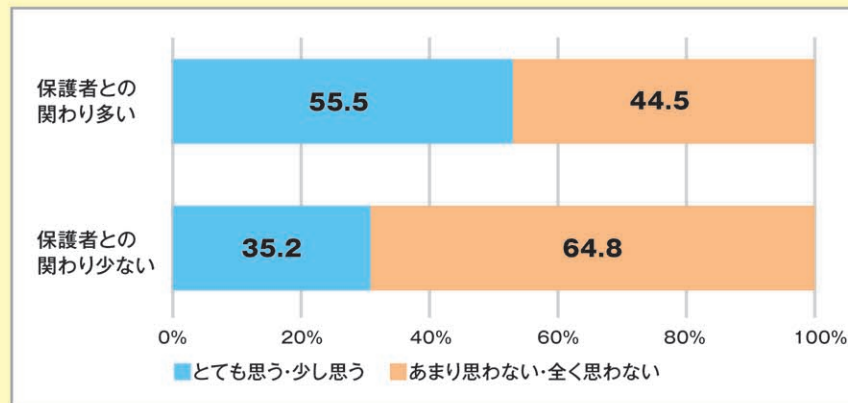
家庭教育は、すべての教育の出発点であり、子どもが「生きる力」の資質や能力を身に付けていく基礎をつくります。子どもが健やかに成長するためには、各家庭で、子どもの発達に応じた保護者の関わりが非常に重要です。

保護者の子どもとの関わり(しつけ等)と生活習慣(朝食をとる、自分で起きる、家であいさつをする等)の関係(小学生)



参考:平成24年度青少年の体験活動等に関する実態調査

保護者の子どもとの関わり(しつけ等)と「勉強は得意な方だ」の関係(小学生)



参考:平成24年度青少年の体験活動等に関する実態調査

子どもが幼い頃から、保護者が子どもに対して関わり(早寝早起き朝ごはんの習慣づけ、家庭内や近所でのあいさつ、家事の手伝いなど)をしっかりもつことで、生活習慣が定着したり、勉強が得意になるなどの傾向にあることが報告されています。

子育てに悩みはつきもの

子どもとコミュニケーションをしっかりととり、保護者の気持ちを子どもにうまく伝えることができると、子どもも納得して自分の生活や行動を見つめ直すことができるのではないのでしょうか。

「子どもが勉強しない」
「生活習慣が身に付いていない…」

子どもが愛されていると実感できる コミュニケーションをとる

子どもは、愛され理解されたがっている存在です。
『日頃から子どもの話をじっくり聞く』『子どもの気持ちになって考える』『深い関心を払う』といった姿勢を親が身に付けることで、子どもは親に愛されている実感を得ることができます。

子どもは愛されていると感じるとき、安定した気持ちで問題に立ち向かうことができます。

「叱られる側」の子ども立場も 考えてみる

しつけは大切ですが、しつけなくては、という気持ちから、つい手を出してしまい、その行為に歯止めがきかなくなってしまう場合もあります。子育てのイライラやストレスが、子どもへの愛情を忘れさせ、叱るという行動にすりかわっているのではないのでしょうか。

上手な叱り方のヒントは、「叱られる側」の子ども立場になって考えること。「そう言われたら子どもはどう感じるだろうか」「子どもはどう受けとめるだろうか」まず、ここから考えてみましょう。